

とろんのPAI通信(25)2011年秋号

げんきりよくはつでんしよ
in PAI (タイ北部山中の桃源郷)

3月11日の日本の出来ごとを知ったのは、ボクら家族がネパールのポカラに居た時だ。長男の太一が4才で、愛妻はるか34歳、ボクがインドのベナレスで還暦を迎えてスグのことだった。そして彼女のお腹には7カ月目になろうとするイノチが宿っていた。その大きくなってきた彼女のお腹を見て、会う人の誰もが「もう日本へは帰らない方がいいよ」というのだけど、肝心の妊婦の彼女は「岡山の家で産む!!!」という強いイメージがふくらんでいた。ボクの両親の介護のために桃源郷PAIから桃の里岡山に戻って3年間介護を続け、二人ともほとんど同時に逝ってしまった今、二人の遺影が在る八畳の仏間で出産したいというのだ。太一はPAIの家でボクが取り上げ、今回は岡山の家でだ。そのボクの(助産力)を高めるために今まで本などで沢山学んできたのだけど、今回は、『あなたにもできる自然出産』(さかのまこと著、本の泉社刊)一冊に絞って、6カ月間の旅の間、ずっと熱心に繰り返し読んでいた。

ボク自身は、こどもや胎児や母体のためにも「アブナイ日本にはもう帰らない!!!」で桃源郷PAIで出産し、そのままPAIでずっと子育てをしよう!!!という(覚悟)がふくらんでいたのだけど、「ダイジョ〜ぶ、だよ」とろんさん」と微笑む彼女の(女力)と「おとちゃん、岡山がいいよ!!!」と元気で屈託のない4才の(未来力)にうち負かされて、4月の中旬に帰国した。天真爛漫で無邪気な彼らを説得して、両親とも広島で被爆している被爆二世のボクは、フライト直前に三万円も払って、成田着を博多着に変更し、アブナイ日本の土地を、コワゴワ、踏んだ。そして、6月29日(水)0時0分、岡山県総社市のボクの実家で、父母が寝起きしていた仏間で、ボクの両の掌に「満」みちる、が産まれおちた。4090グラムの超巨大な女の子の誕生だ。

今回も日本に帰ってしまったけど、「日本にはもう帰らない!!!」と強く覚悟して日本脱出したことが、今までに二度ある。一度目は1969年の春、高校卒業直後に、神戸港からフランス郵船に乗ってインドに渡った。ちょうど日本の高度成長??の始まりの頃で、高卒で月給2万円、1ドルが360円で500ドルしか持ち出せない時代だった。わけのわからない巨大な個を飲み込む強烈なる(時代の渦)に巻き込まれるのが、生理的に(トテモイヤ!!!)だったのと、ボクの内奥から湧き起る(度を越した)イノチの勢いに突き動かされ、どこへ向かうかわからぬまま(第三の道)を歩み始めたのだ。そして、インドからヨーロッパまでの国々には(長髪の変な人たち)ばかりがケモノじみた旅をしていて、その光景にショックを受け続けたものだ。田舎に育って何も知らない18歳のボクが、



シルクロードで(ヒッピー)たちと遭遇した瞬間だ。

二度目の覚悟の日本脱出は、2000年の暮れ、21世紀の夜明け直前、ボクが50歳に達しようとするところだ。2回目の離婚をし、日本での人間関係や生活の全てがボクの限界点に達していたのと、やはり、ボクの内奥から湧き起る(度を越した)イノチの勢いに突き動かされ、またまた、どこへ向かうかわからぬまま(自分の道)を探し歩き始めたのだ。そして50歳になって、向かうべく方向が全くわからなくなって途方にくれながらも、阿呆のように内から湧き起ってくるイノチの勢いに突き動かされてゆくと、まるで分娩に至る(陣痛)のように、なんどもなんども(強い波)が押し寄せきて、まるでサーファーのようにその波に乗っては飛翔展開してゆくと、決まって、ひかりが差し込んでくるのだ。なんだか、衝動的に絵や文章を描いたり、吹きたい気持ちいっばいで竹の笛を吹いたり、地図も持たないで発作的に旅にでたりするのと似ていて、なにも考えなくとも(ひとりで)手や指や足が動き展開飛翔してゆき、(ひとりで)道が開かれてくるのだ。インドのベナレスで50歳に達し、2001年の春、新天地PAIに流れ着いて、なりゆくまに(強い波)に流されていたら、一年後には、なにがなんだか、何者かに仕組まれたように村づくりが始まっていて、気が付いてみたら田植えや稲刈りをしていて、六角堂や自分の新居も建ち、どんどんと村の形が出来てきて、6年間で『ムーンビレッジ』という作品が完成してしまった。その出来上がった『作品』を落札するかのようになり、何者かがこのムーンビレッジの土地を買収してしまったのだ。と同時に、まるで待ち構えていたかのように「オレの土地を使っていよいよ」という人物が現れ、今、もっと山奥で3倍も広い、6000坪の山中で『NEW MOON VILLAGE』という作品制作中で、3年半くらいが過ぎた。6年間続いたムーンビレッジでは、その究極に、2007年7月7日七夕から七週間の(まつり)を祭った。(たましいのかくじっけん)第一弾だ。そして、今取りかかっている新天地NEW

MOON VILLAGEでは、2012年12月1日から108日間、全くの白紙状態から何も決めないで強い(なりゆき)で展開進行してゆく(ハブニング)、(たましいのかくじっけん)第二弾、が待ち構えている。村の果樹園の入り口に(ガネーシャ祭壇)が在って、そこに、「火と旗があれば祭りは出来る!!!」と言い放って、数々の(まつり)を祭ってきた亡き旧友(春のうらら)のお骨を埋葬予定なので、彼の命日、3月21日、(ハブニング)が始まって111日目、(まつり)が画竜点睛となる。

この文章が人目に触れるころ、ボクは、産まれたたの(満)みちるの(イノチの爆発力)と5歳になった太一の(未来力)と二人目のこどもを産んだばかりの愛妻はるか(女力)に引っ張られるように、沢山の布おむつの間に、昇天してしまった(まつり)のキーパーソン(春のうらら)のお骨をひそかに忍ばせて、赤色の大型トランクをゴロゴロ押しながら岡山を発ち、東京、バンコク、PAIへと向かう。そして、フライト直前の11月11日(金)に東京西荻の「ほびつと村」で(まつり)一年前の(前年祭)をやって、またもや、バイバイ日本!!!!だ。

ボクらの新天地には、全く違うタイプの家に(村民)が五か所にバラバラに暮らしていて、その五組の放つそれぞれの(日常生活力)と、新天地の放つ聖地特有の(誘発力)と、そこに縁あって惹かれやってくるアナタ、他とは全く交換不可能なアナタの(発芽力)で(ハブニング)が勃起展開してゆく。何のために、どこに向かってどんな花が咲いてゆくのか、誰も何もわからぬまま、強い(なりゆき)で純白のキャンパスにイノチが描かれてゆく。アナタがアナタのタイミングでPAIを目指したときから、(うちゅう)は動き、(ハブニング)が起き連鎖してゆく。

いまだに先の定まらぬボくら4人家族も、この108日間の(ハブニング)連鎖の波の中で、なにか、(カオス)を脱して(コスモス)の華咲く真っすぐな(道)、が開けてくる強い予感がしている。そして、いつでもそうなのだけど、今はわからなくとも、(なぜ)このような前代未聞の(ハブニング)が、このタイミングで想起されたのか??が後になってわかってくるのだから。

今、『とろんの元気力発伝書』――瞬先は、ひ、か、り物語――という本を描きはじめてるのだけど、ホントに、生きてる限り「瞬先は、ひ、か、り!!!」なのだ、今、全細胞で感じている。

原子力から(原始力)へ!!!そして、アンタやボくらが自分の(はまり処)にキチンとはまって、今、日本中に、『元気力発伝処』を!!!キチンと主夫にはまっている、還暦とろんより。